

豊川市制施行80周年・豊川海軍工廠平和公園開園5周年事業



# 豊川海軍工廠を 『伝える』

～あの日ここで起きた出来事を未来へ～



豊川市教育委員会生涯学習課

昭和18(1943)年6月1日に愛知県下8番目の市として誕生した豊川市は、今年で市制施行80周年を迎えました。その成り立ちや戦後の復興において豊川海軍工廠の存在なしに語ることはできません。

豊川海軍工廠は昭和14年12月15日に開廠し、東洋一の兵器工廠と謳われましたが、昭和20年8月7日の米軍による空襲によって壊滅的な被害を受けるとともに多くの尊い命が奪われ、8月15日の終戦となりました。そして戦後、工廠関係者で組織された八七会や当時の動員学徒・女子挺身隊として工廠に関わった人々などによってその体験が語られ、手記が発行されてきました。

やがて戦後50年が迎へ、豊川海軍工廠での出来事が人々の記憶から薄れつつあることを憂慮し、豊川市では平成7(1995)年8月7日に平和都市宣言を行い、同時に設置した豊川市平和都市推進協議会により体験者を語り部として学校などへ派遣する事業が行われてきました。

しかし、語り部の高齢化などにより、体験者が直接語る事が難しくなる中、豊川市では、豊川海軍工廠跡地の一面に残る当時の遺構を保存・整備し、「場の力」を活かすことで、ここで起きた出来事を未来に伝える平和公園を整備することとしました。

そして、平成30年6月9日に豊川海軍工廠平和公園が開園し、戦争を知らない世代を中心とした語り継ぎボランティアの皆さんとともに、戦争の悲惨さと平和の尊さを広く市民に伝える活動をこの5年間行ってきました。

また、開園5周年にあたり新たな取り組みも始めています。



### これまでの活動



- 平和交流館での資料紹介、映像視聴、関連する図書の収集及び閲覧コーナーによる情報提供
- 豊川海軍工廠空襲犠牲者名簿の作成と工廠空襲犠牲者の性別・年齢別分析結果等の公表
- 工廠従事者が記した日記の活字化や手記目録の作成
- 語り継ぎボランティアの養成(2回)
- 語り継ぎボランティアによる1日4回の見学者へのガイドと市内小学校6年生見学事業のガイド
- 体験談を聴く会・専門講座・子ども向け工作講座などの開催
- 8月7日の「折り鶴に平和の祈りを」、戦争と平和に関する絵本の読み聞かせ会・映像鑑賞会の開催
- 名古屋大学豊川フィールド内に残る工廠跡地の見学会の開催

### 開園5周年に合わせた取り組み

- 語り部の言葉を文字に起こし、それを朗読し伝えるという試み
- 8月7日に起きたことを亡くなった人々の記録と生き残った人々の手記の分析から復元する試み
- 白黒写真をカラー化することで当時の施設・設備の様子を鮮明化する試み
- 物語として語り継ぐ可能性を代田小学校で30年間演じられてきた伝統劇から探る試み

豊川海軍工廠での出来事を伝えることは、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えることでもあります。もうすぐ戦後80年になろうとしています。このことを100年後、200年後、そして未来永劫に伝えていくために今に生きる私たちは何ができるのかを考え続けています。

近年、広島原爆投下や長岡空襲・豊橋空襲に関する白黒写真のカラー化が、AI技術を活用しつつ関係資料による検証や体験者の聞き取りを実施する中で進められています。しかし、戦時中の白黒写真のカラー化は、社会的な関心を掘り起こす意義はあるものの、AI任せで行うとこえって誤解や間違いを広めかねないことから、安易に行うべきではないとされています。

今回、桜ヶ丘ミュージアムで所蔵する工廠操業当時の白黒写真「光学部・指揮兵器部庁舎付近の写真」について、関連資料の検証や体験者への聞き取りが完了したことから、AI技術も一部取り入れながら、色鉛筆による色補正を重ねた着色写真を平和交流館で公開することとしました。

色再現は完全なものではありませんが、カラー化により光学部庁舎南側の松林に設けられた防空壕の姿がより鮮明に捉えられ、また奥の指揮兵器部庁舎の屋根の上(煙突の手前)には防空用の監視台と思われる施設が存在したことが判明するなど、手記にも出てくる防空施設や設備の状況が着色カラー写真として今に甦りました。



### カラー化写真撮影位置

(右の桜ヶ丘ミュージアム模型写真の●印)

上記写真は、光学部調整工場から西側に向けて撮影されたもので、多くの方が整列しています。撮影時期は昭和20年3月頃とされ、写真右側に光学部庁舎、その奥に指揮兵器部庁舎、その向こうに煙突やガス溜の施設が写り、庁舎前広場の松林に仮退避のための防空壕が複数築かれていたことがよくわかります。



東洋一と謳われた豊川海軍工廠では、5万人以上の人々が働いていたと言われています。あの日あの時何が起きたのでしょうか。残されている戦没者名簿や生き残った関係者の膨大な手記から、あの日ここで起きたことを明らかにすることで、未来へ伝えるための手がかりが得られるのではないかと、各種分析を試みました。

## 豊川海軍工廠戦没者名簿からわかること

平和交流館で閲覧できる「豊川海軍工廠戦没者名簿」は、民間人犠牲者を含めた2,724人の亡くなられた方の名簿です。このうち2,333人については、当時工廠が作成した戦没者名簿や略名簿の記載事項から性別及び没年齢を確認でき、豊川海軍工廠空襲犠牲者の実態が明らかになりました(豊川海軍工廠平和公園HPで公開)。

図1 豊川海軍工廠空襲犠牲者年代別比率

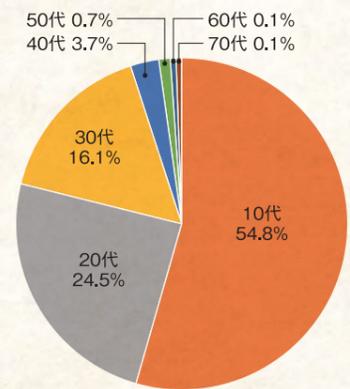
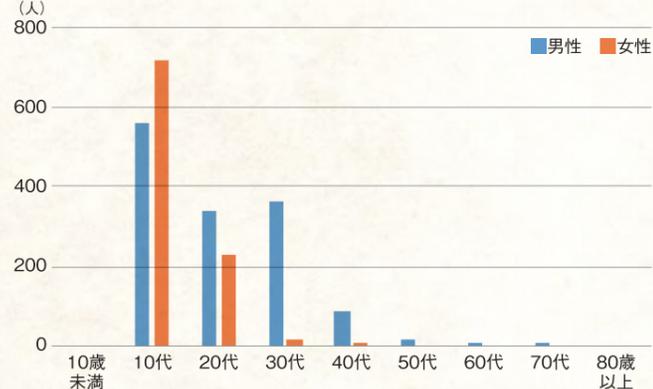


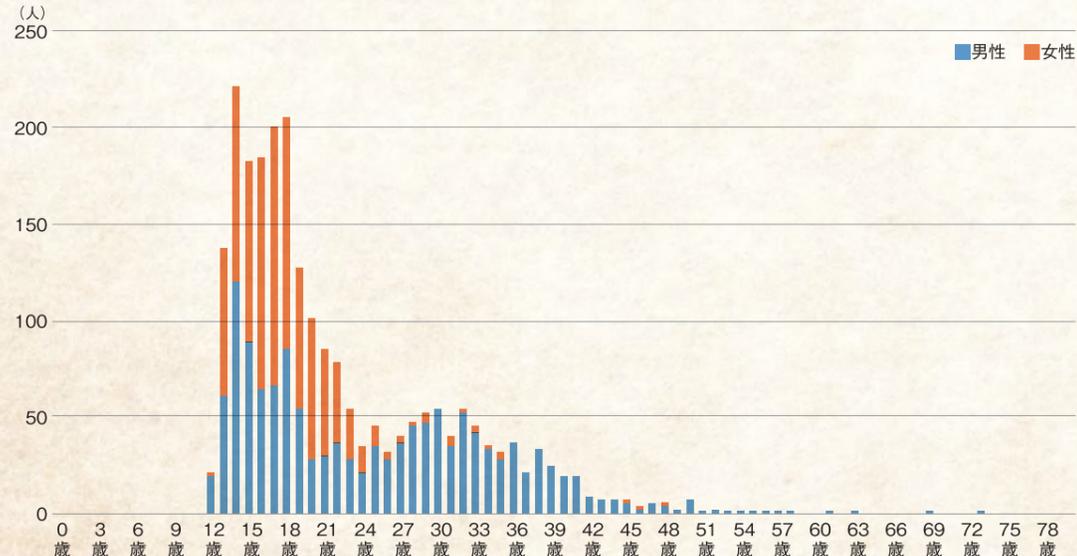
図2 豊川海軍工廠空襲性別年代別死者数



まず、年代別の比率(図1)は10代が1,278人と全体の54.8%を占めています。10代では女子が多く(図2)、この中には動員学徒452人(男193人、女259人)も含まれています。全体の男女別では、男1,366人(58.6%)、女967人(41.4%)と男性が多くなっていますが、15~22歳までは男性より女性がかかなり高く、20代後半から極端に低くなっています(図3)。

これは、12歳以上の中等学校の低学年や国民学校高等科の学徒が男女ともに動員され、また10代後半から20代前半にかけては、女子挺身隊(主として未婚の14歳以上25歳未満)といった若い女性が全国から同窓会や婦人会など団体単位で動員されたことを反映したものと考えられます。豊川海軍工廠の生産の現場を支えていたのは学生や若い女性だったという実態が、こうした資料から統計的に裏付けられました。

図3 豊川海軍工廠空襲年齢別死者数(戦没者名簿より)



## 犠牲者の勤務場所と死亡の状況

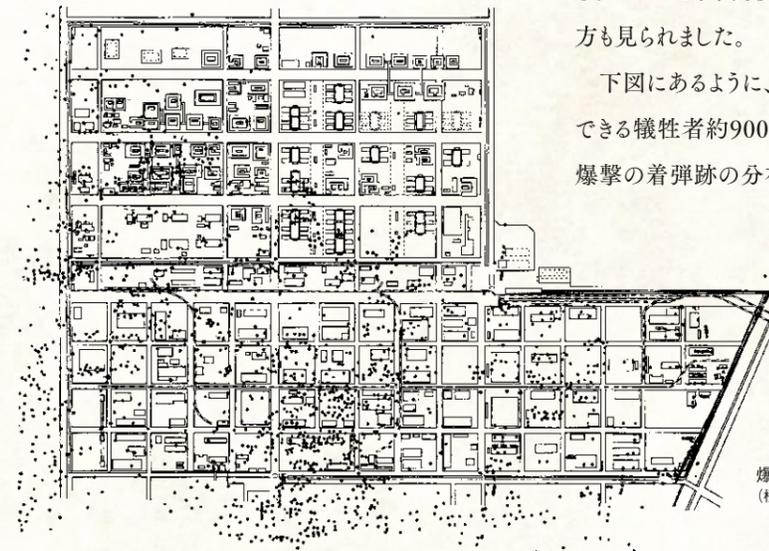
8月7日の豊川海軍工廠の空襲では、手記等を参考にすれば、10時過ぎに空襲警報のサイレンが鳴ってすぐに「女子ならびに低学年学徒退避せよ」のアナウンスがなされたようですが、「総員退避」の指示も含め、職場によって連絡の状況や対応はまちまちでした。すぐに敵機が来襲し爆撃がはじまり、廠外の退避場所に逃げる時間的余裕がなかった職場もあり、多くの犠牲者を生むことになりました。犠牲者の大半を占める学徒や女子挺身隊員が、防空壕内でまともな犠牲となっていた事例も多く、また命令に忠実に従い道具を抱えたまま亡くなっていた方も見られました。

下図にあるように、豊川海軍工廠殉難者名鑑等から当日の勤務場所を類推できる犠牲者約900人の勤務場所(区画ごとに●で人数を表示)は、8月7日の爆撃の着弾跡の分布図とも重なる点が多いことが読み取れ、数波に及ぶ空襲

のさなか廠内を逃げ惑い、一瞬の判断が生死を分けたと考えられます。

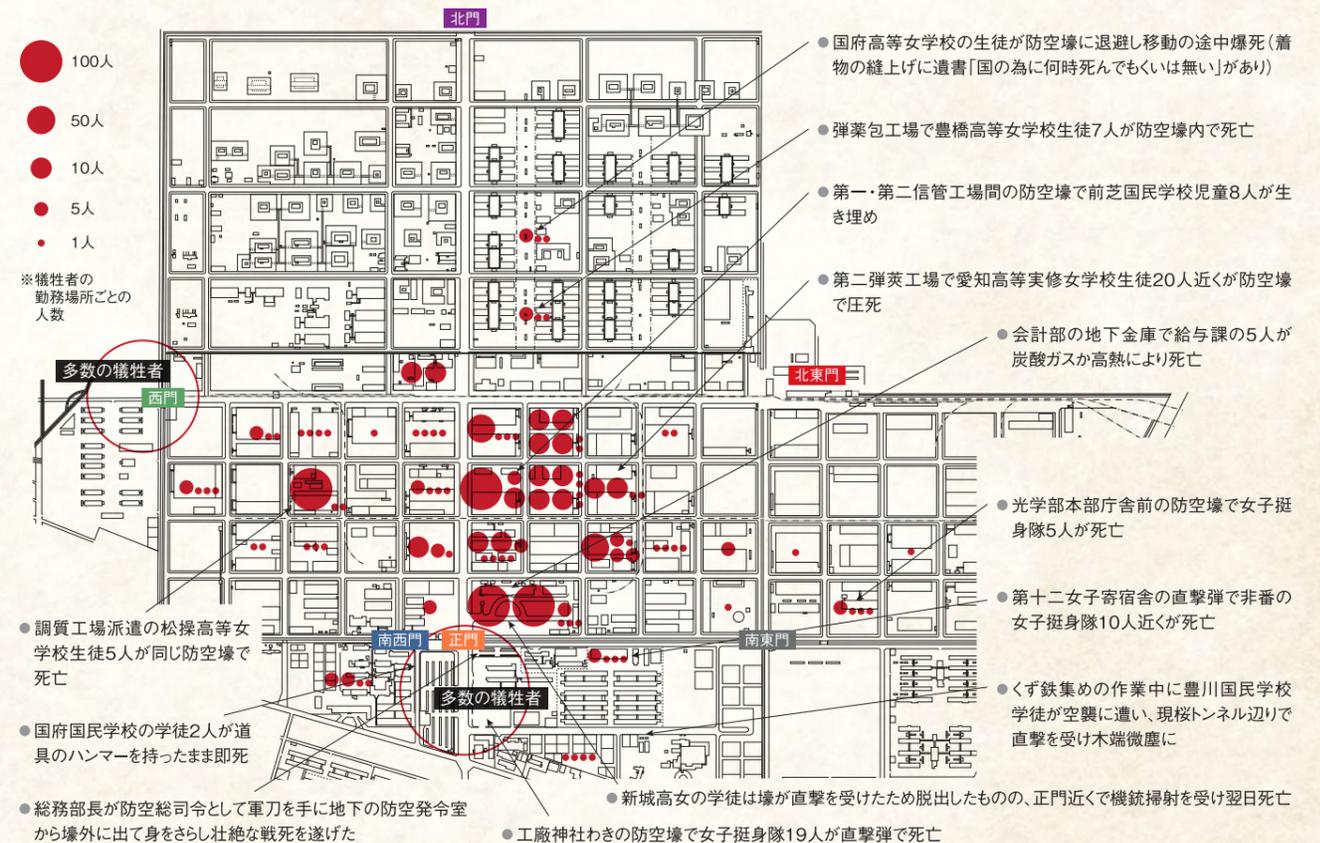


電気工場屋上にあった防空用警報器



爆撃直後に工廠側が調査した弾着点図(桜ヶ丘ミュージアム所蔵資料より)

## 豊川大空襲の犠牲者の死亡場所分布図



## 空襲時の行動 ～体験者の手記より～

※各番号は工廠全体図の勤務場所を示しています。

### ③5 機銃部庁舎

庁舎から北門に向かったところ機銃掃射に遭う。北門をぬけ芋畑を越え民家に逃げ込んだ。(女子挺身隊)

### ③5 機銃部庁舎

空襲警報発令のあと総員退避のアナウンスがあり、計算機をもって庁舎前の防空壕に飛び込む。爆撃ははじまり無我夢中で西門に向かって逃げ、橋の落ちた西門の濠に飛び込み爆撃の中を必死に外に逃げ、田を越え赤塚山までたどり着いた。(男子工員)

### ④7 火工部庁舎

一度空襲警報が出た後、すぐ解除になり、その後空襲警報が再発令された。第一波の後すぐに警備配置につくため工具の倉庫まで走る。足元の壕へ飛び込むが至近弾で崩れ、土に埋まる。外が静かになってから掘り出され、救出される。トラックで国府高女へ運ばれて、手当てを受ける。(男子工員)

### ④7 火工部庁舎

女子従業員に廠外退避が出る。指揮官付きの伝令を言い渡され、指揮官壕へ入る。至近弾で天井に穴が開き、出入口にも土砂が積もった。爆音が消えてから、周辺の壕を確認して回る。半数は空壕、指揮官壕の7～8人以上生存者はいない。(見習工3期)

### ③5 機銃部庁舎

朝、広島の新型爆弾の話など雑談をしていた時警戒警報が鳴り、次に空襲警報が出てすぐ爆弾が落ち始めた。訓練時は北門外への避難が決まっていたが、瞬時の判断で友人も皆西門の方へ逃げ出した。西門では守衛さんが銃剣を突きつけ「出るな」と遮ったが、柵の下をくぐり抜け西へ逃げ続けた。(女子学徒)

### ④2 第三機銃工場

工場の北側に回った時、廠内に引き込んだ貨車に積み込んだ弾薬が貨車と共に燃え出し弾薬がパチパチはぜ飛んでくるので西門に逃げたが、その付近は戦場そのものだった。(男子工員)

### ④7 第四機銃工場

空襲警報のサイレンで全員退避の身支度を固め作業を続行。工廠長より「B29来襲、学徒女子工員全員退避せよ」の放送があり、正門前の銃座についたが、急用で戻ると、工場内拡声器は「全員退避」を告げていた。西門に向かって走り出した。西門外の芋畑で伏せていたが全身土に埋まる。(見習工1期)

### ④9 調質工場

女子工員全員退避の命令が出て工場を出た時、空にはキラキラと錫(アルミ箔)のテープがばら撒かれていた。すぐに爆撃が始まり廠外に走って逃げたが、廠内を振り返った時ももうたる煙が立ち込めていた。(女子挺身隊)

### ④4 仕上工場

空襲警報の合図とともに本退避の命令が下ってまず仮退避し、爆撃の中道具のヤスリ三本を持ち西門から廠外に逃げる。(女子挺身隊)

### 共済病院

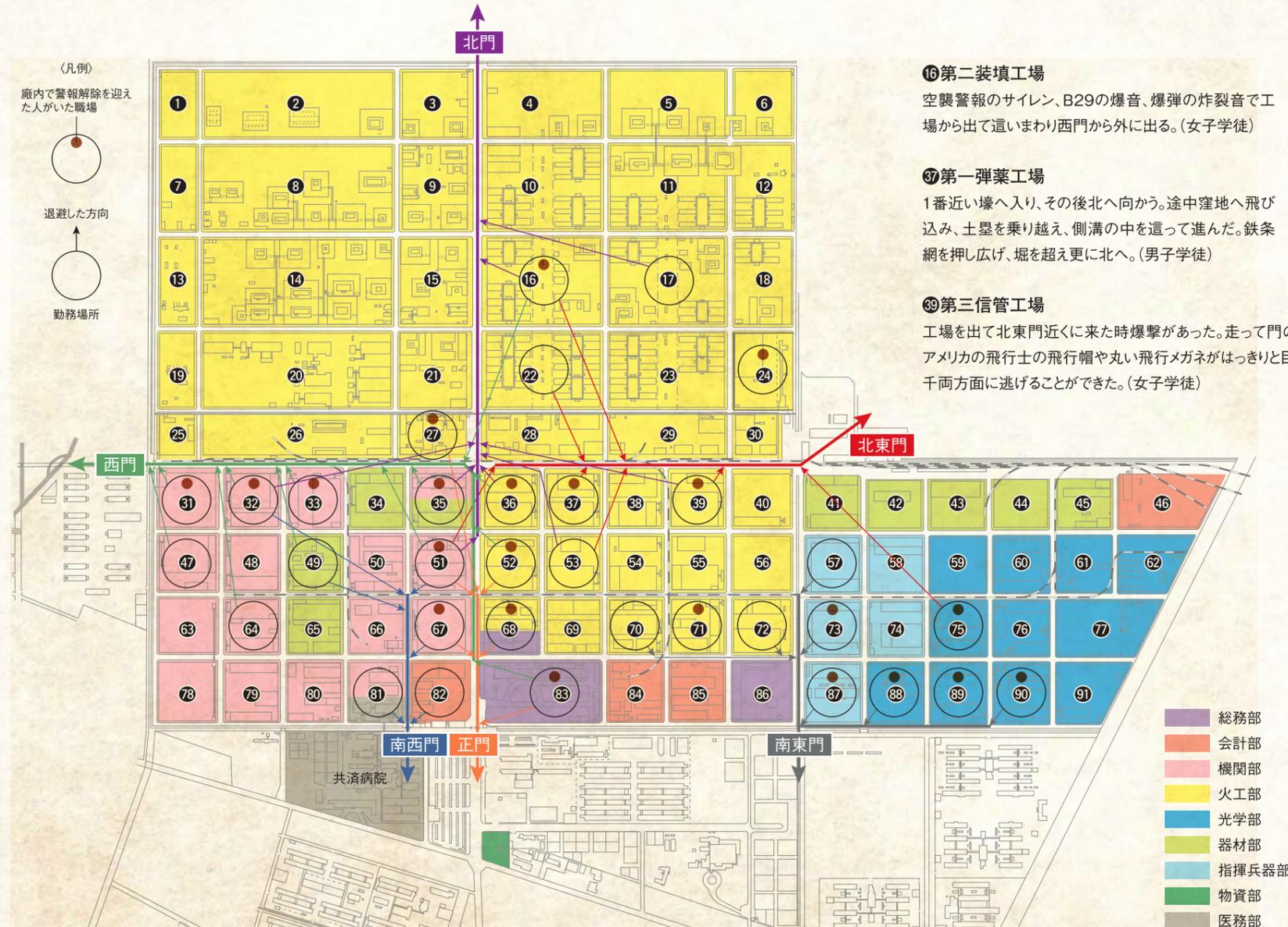
空襲警報が鳴ると同時に病院の西側(諏訪の田んぼ)から爆弾が落ち始めた。病院職員・患者の大部分は避難したが、病舎は丸焼けとなった。(共済病院看護婦)

### ①6 第一装填工場

突然空襲警報、退避命令が矢継ぎ早に出て、作業所横の防空壕(退避壕と監視壕からなるL字型で浅い簡単なつくり)に駆け込みひたすら爆撃が終わるのを待った。(男子学徒)

### ①6 第二装填工場

空襲警報発令の後退避命令が出て北門まで走る途中で爆弾落下の音を聞き防空壕に飛び込む。その後北門を出て千両の方に逃げる途中で機銃掃射に遭い、近くの農家に逃げ込む。(女子学徒)

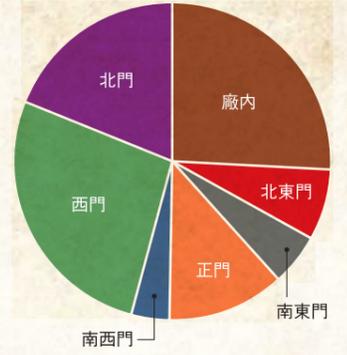


## 生存者の退避状況と証言

豊川海軍工廠には時計回りに正門、南西門(南通用門)、西門、北門、北東門(東門)、南東門の6つの出入口がありましたが、空襲の当日は工廠を囲む鉄条網をかいくぐり堀を越え廠外に退避した方もいました。手記等から工廠内勤務者の空襲時の行動を分析すると、退避状況が確認できる208人中、脱出した出入口は西門、北門、正門の順に多く、4人に1人は廠内で空襲警報解除を迎えたことがわかります(グラフ参照)。

西門から退避した人数が高い割合を占めた理由の一つとして、手記にみられるように廠内中央付近の勤務者で本来は北門外の廠外退避所(松林内)に退避すると定められていたにも関わらず、爆撃のさ中、火薬庫等のある北門付近を危険と考え西門に向かった方がいたことが挙げられます。また西門周辺は正門周辺同様に多くの犠牲者が出た場所ですが、西門では守衛が銃剣を突きつけ「外へ出るな」と制止し退避が遅れたとの証言もあります。ただし、女子学徒の手記には「その横をすり抜けて無我夢中で外堀をさぶーんと飛び込んだ」、「柵の下に狭い隙間を腹ばいになってくぐり抜けた」との記述もあり、守衛の制止をくぐりぬけ必死に逃げた人々もいたことがわかります。また、B29の爆撃だけでなく、米軍のP51戦闘機による機銃掃射にも遭遇しながら命からがら退避したとの手記も多くみられます。

\*手記は平和交流館で読むことができます。



### ①6 第二装填工場

空襲警報のサイレン、B29の爆音、爆弾の炸裂音で工場から出て這い回り西門から外に出る。(女子学徒)

### ③7 第一弾薬工場

1番近い壕へ入り、その後北へ向かう。途中窪地へ飛び込み、土塁を乗り越え、側溝の中を這って進んだ。鉄条網を押し広げ、堀を超え更に北へ。(男子学徒)

### ④9 第三信管工場

工場を出て北東門近くに来た時爆撃があった。走って門の外に逃げた時機銃掃射が始る。敵機を見上げた時、アメリカの飛行士の飛行帽や丸い飛行メガネがはっきりと目に見えた。北東門駅を囲む板塀の下敷きになりながら千両方面に逃げる事ができた。(女子学徒)



豊川海軍工廠空襲目撃図  
機銃部に動いていた渡辺毅氏が、昭和20(1945)年8月7日午後4時頃の様子を描いたというもの。

### ④0 研磨工場

突然爆撃の炸裂音が聞こえ、私は電話機を持ち地下壕に退避し、その後松林に退避したが、その時飛行機が落ちていった銀紙(電波妨害用のアルミ箔ロープ)が囂るように舞い降りてきた。(女子挺身隊)

### 正門前

午後3時頃娘を探しに正門に行き、すぐわきに娘が倒れていた。遺体を引き取らせて欲しいと軍の人に頼んだが、ダメと断られた。(女子工員の母)

### 正門前

敵機が去って間もなく、正門前の一直線の道を大勢の人が土煙をあげて向かってくる。その人たちに取り囲まれ、胸倉をつかまれて娘を返せと詰め寄られる。皆動員学徒の母親たち。その勢いに圧倒されて声も出さず立ち尽くした。(工場係官)

## 平和都市宣言

昭和二十年八月七日、私たちのまちでは、豊川海軍工廠の被爆によって、動員学徒や女子挺身隊員を含む工具・職員ら二千五百名以上の尊い命が奪われ、身をもって戦争の悲惨さを体験しました。そして、この被爆と前後して、私たちの国は、世界で最初の核被爆国となりました。

私たちの国だけでなく、歴史上かつてないほど多くの犠牲者を出したことが、なぜ起きたのか、ともに考え、子孫に語り伝えていかなければなりません。戦争の惨禍を防止し、恒久平和を実現することが、私たち市民の願いだからです。

しかし、現実には、世界各地で武力紛争や戦争が絶え間なく起こり、核戦争の危機は、人類の生存に大きな脅威となっています。

私たち豊川市民は、人権を尊重しあい、平和を愛する心を育て、人類の絶滅につながる核兵器の廃絶を訴え、地球の平和と安全の確保を希求するため、ここに平和都市を宣言します。

平成七年八月七日

豊川市



**車** 東名高速「豊川I.C.」から約10分(駐車場約60台)

**電車** 名鉄豊川線「諏訪町」駅下車徒歩約40分

**バス** 豊川市コミュニティバス: ゆうあいの里八幡線「豊川海軍工廠平和公園」下車徒歩5分  
豊鉄バス: 豊川線、新豊線「諏訪西町」下車徒歩30分

# 豊川海軍工廠平和公園 豊川市平和交流館

〒442-0061 豊川市穂ノ原三丁目13-2 TEL・FAX(0533)95-3069

●開園時間/午前9時～午後5時 ●休園日/火曜日(祝日の場合は開園)、年末年始(12/29～1/3) ●入館料/無料